



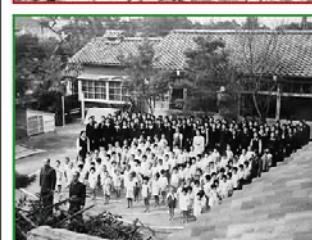
建物は天理教馬町宣教所。

比較的被害は少ないが、塀には弾痕状の穴が数多く見られる。小さな貼り紙には「罹災者応急住宅斡旋受付所 大和大路通馬町角 東山區貸家組合」とある。歩道には瓦礫がまとめられている。入口にたたずむ子どもは誰だろう。八ツ橋の丸い看板が見える。

道路の傾斜や郵便ポストの位置から、逆訛が刻まれたお地蔵さんの祠があつ今西酒店付近と推定される写真。地域の穴は土木工事の跡である。故大野孝司さんの説明では、住民の協力のもと、障子戸や格子戸は今西酒店の路地を南に入った東側付近はずされ、屋根瓦もすべてまとめられた民家とする。北側から爆風を受けたている。補修作業も進められている。歩道には瓦礫の中には「聖護院」のだろう、建物は大きく南に傾いている。破損した角材に紙が貼られているが、判読できなかった。

詳細な場所は不明であるが、写真の奥仁丹町名表示板には「下京区渋谷通東には東山の稜線がわずかに見えている。大路東入三丁目下ル上馬町」とある。写真の右側は土木のノリ面のよう、渋谷通北側に日光が強く当たるのは、一段高く見える。がれきの木材が放射向かい側の建物が倒壊したため。状に倒れて散乱し、中央がくぼんでいた道には瓦礫があふれ、大八車も連なり、歩道で散乱する瓦礫の中には「聖護院」のだろう。建物は大きく南に傾いている。破損した角材に紙が貼られているが、判読できなかった。

仁丹町名表示板には「下京区渋谷通東には東山の稜線がわずかに見えている。大路東入三丁目下ル上馬町」とある。写真の右側は土木のノリ面のよう、渋谷通北側に日光が強く当たるのは、一段高く見える。がれきの木材が放射向かい側の建物が倒壊したため。状に倒れて散乱し、中央がくぼんでいた道には瓦礫があふれ、大八車も連なり、歩道で散乱する瓦礫の中には瓦礫があふれ、大八車も連なり、足の踏み場もない。立ち話するは復旧作業中のモンペ姿の女性たち。



⑩-Aは全焼直後、⑩-Bは鎮火後を撮影したもの。屋根の形や電柱、樹木が一致していることから同じ場所だとわかる。故大野孝司さんの説明には、当時の浜田家の前部が倒壊した後、都市ガスに引火して全焼したとある。瓦礫の上には呆然と立ち尽くす女性。



⑩A・Bともに被弾した京都女子専門学校・第三小松寮の南寮(新館)を撮影したもの。中央部が吹き飛んでいることから被害の大きさが見てとれる。寄宿していた120名の内5名が生き埋めとなつたが、負傷するも全員救出された。幸いなことに死者は出なかつた。